

羽村市教育委員会 殿

学校名 羽村市立羽村西小学校

校長氏名 刀 禰 俊 明 公印

令和8年度教育課程について(届)

このことについて、羽村市公立学校の管理運営に関する規則に基づき、特別支援学級(知的障害)の教育課程を下記のとおりお届けします。

記

I 教育目標

(1) 学校の教育目標

「元氣にかかわりトライ&エラーで伸びていく」を合言葉として以下の教育目標を設定する。

- ◎ よく考え進んで学ぼう【思考力・判断力・表現力】(基本的な学習習慣が定着し、自らの学びを調整し、主体的に学ぶ児童の育成)
- みとめあい たすけあおう【人間関係形成力】(あいさつ、気持ちのよい言葉づかい、援助要請、お礼が自然にできる児童の育成)
- じょうぶな体をつくろう【基礎体力】(基本的な運動習慣が定着している児童の育成)

(2) 知的障害特別支援学級の教育目標

障害特性による困難さを改善・克服し、心身ともに健康で、自立した児童の育成を目指して、次の目標を設定する。

- ◎ 進んで学ぼう(自ら進んで学び、物事に意欲的に取り組む児童を育てる。)
- 友だちと仲よくしよう(互いの良さを認め合い、友達と仲よく助け合う子を育てる。)
- 元氣にあそぼう(遊びの中で体を鍛え、心身ともに健康でたくましい児童を育てる。)

(3) 学校、学級の教育目標を達成するための基本方針

「はむらの学校教育」に基づき、以下の方針で学校教育活動を行う。

- 人権教育の推進
学級での活動や他学級との交流など多くの人とのかかわりを通して、自己理解や他者理解を進め、豊かな人間性を育む。お互いを認め思いやる心を身に付けるとともに、より良い集団生活が送れるよう指導を行う。
- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の推進
児童一人一人の障害特性および発達段階を踏まえ、個に応じた指導を行うとともに、探究的な学習や体験活動などを通じて、児童が協働しながら学習が進められるよう教材や内容を工夫したり、デジタルを活用したりして、確かな学力をつけ、自立した学習者を育成する。
- 特別支援教育の充実
くすのきツアーを活用しながら、通常の学級との交流及び共同学習を計画的に進める。また、特別支援教育コーディネーターを中心に学校全体の特別な支援を要する児童を把握し、校内委員会の充実を図り、「チーム羽村西小」として校内における支援体制を確立していく。さらに、校内研修等の機会を通して教員の資質向上を図り、特別支援教育を充実させる。
- 道徳教育の充実
「はむらの道徳科授業指針」に基づいた授業を行い、友達と自らのよさを認め大切にできる心情・態度を育て、自己有用感、他者理解、他者尊重の向上を図る。
- 健全育成の推進
児童一人一人の心のケアに努め、自殺防止やいじめ、不登校の未然防止や早期発見につながるよう児童とのかかわりを日々大切に、生活指導部を中心に組織的に取り組む。
- 幼保小連携、小中一貫教育の推進
羽村第一中学校区小中一貫教育実施計画を踏まえて、学力の向上を図るため、言語能力の向上に重点を置いた授業改善に取り組む。小中学校間で連携し、特別な支援が必要な児童への9年間を見通した教育活動を行う。また、幼稚園や保育園と児童の引継ぎ等を密に行い、連携を図って指導を行う。
- 学校・保護者・地域が協働した学校運営(コミュニティ・スクールの充実)
教育活動の結果を学校便り、ホームページ、学校ブログ等で家庭や地域に積極的に発信する。学校アンケートの結果を基に学校運営の課題を明確にし、コミュニティ・スクール委員会で改善点を検討する。学校・保護者・地域 が共に知恵を出し合い、学校運営に反映していく。

2 指導の重点

(1) 各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動、各教科等を合わせた指導の重点

ア 各教科

- 各教科の指導において、どの児童も学ぶ意欲をもって学習活動に取り組めるように、「はむらの授業指針」を踏まえ指導に当たる。
- 1人1台端末を活用したり、自由進度学習などを取り入れたりしながら、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、自己調整力を高め、自立した学習者を育成する。
- 一日の生活の流れに見通しをもたせ、児童が主体的に取り組めるようにする。児童の実態に合わせた教材・教具の創意工夫により、思考力、判断力、表現力、読解力等を育て、トライ&エラーで最後までやり抜き、「やればできる。伸びている。役に立っている。」と実感できるようにし、学力、自己肯定感の向上を目指す。
- 児童一人一人の障害の状態や発達段階を把握し、指導の目標や内容を明確にする。家庭と連携しながら個別指導計画を作成する。学習意欲を高め理解を深めさせながら継続的な指導と評価を行い、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。
- 日頃より、具体物を操作する活動や体験を通して学べるようにするとともにユニバーサルデザインによる授業や環境づくりを行う。
- 学習場面での言語活動を通して、「聞く・話す・読む・書く」力を伸ばし、発達段階に応じて自分の意思を表現する力を養い、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行う。
- 「話すこと、聞くこと」を重視し、国語科以外の授業でも意図的に取り入れていく。互いの立場や考えを尊重して、言葉で伝え合う力を育成する。
- 実際の生活に役立てることができるような学習指導を行い、児童が意欲的、主体的に学習に取り組めるようにする。また、指導の結果、何ができるようになったのかをこまめに評価し、指導内容を改善していく。
- 家庭学習の充実を図るため、児童一人一人の実態に合ったプリントや音読等の個別課題を作成し、学習習慣の定着と学力の向上を図る。
- 体力の向上や運動する習慣を身に付けるために、中休みを外遊びの時間と位置付け、体を動かす遊びを励行する。なわとび旬間、持久走旬間を通し、体力及び技能の向上を図る。
- 市教研を活用して羽村市内の特別支援学級と連携し、特に羽村第一中学校8組と児童の実態や指導内容についての共通理解や情報交換を図りながら、9年間を見通した学習指導が行えるようにする。
- 近隣の幼稚園・保育園等と連携し、円滑に小学校の生活に適應できるよう支援内容等について情報共有を十分に行う。また、就学支援シートを活用し、個別指導計画を作成する。

イ 道徳科

- 教科書等の読み物教材等を活用し、登場人物の言動を役割演技するなどして道徳的な価値の意義や意味について実感し、深めることができるようにする。
- 保護者会がある学校公開日に、道徳の授業を保護者や地域に公開する。保護者会やコミュニティ・スクール委員会で道徳の授業内容を話題にすることで学校・家庭・地域が一体となった道徳教育を推進する。

ウ 外国語活動

- 外国語活動では、ALTや外国語コーディネーターとともに指導にあたり、楽しみながら外国の異文化に

触れさせ、表現する楽しさや外国語と日本語の違いや文化の相違に気付かせるなどし、親しみをもたせる。

- 個々の児童の発達段階を考慮しつつ、英語の音楽やリズム遊びを多く取り入れ、児童が様々な感覚を使って外国語に親しみをもつようにする。

エ 総合的な学習の時間

- 体験学習や、自らの興味関心から学習課題を決定させる。国語科、社会科等の学習と関連させながら問題解決のための方法を選び、調べ、情報を整理できる問題解決の力を身に付けさせる。
- 人間学(キャリア教育)では、「プロから学ぶ」の話などを参考に、仕事について調べ、将来の就労に向けた学習を行う。
- 羽村学(郷土学習)では、地域の遊び場や公共施設について調べ、実際に利用するなどし、地域マップ作りをして紹介するなどの活動を行うことで、地域へのよさに気づき、愛着を深める。
- 1人1台端末を活用した授業をし、基礎的な操作技術を身に付けさせる。

オ 特別活動

- 学級会での話し合い活動において、自分で考えたり、意見を伝えたりする時間を十分に確保し、児童一人一人に自主的、実践的な態度を身に付けさせる。
- 異年齢集団での活動やクラブ・委員会活動等に参加し、通常の学級との異年齢集団の中で社会性を育む。
- 児童が主体的な話し合い活動や意見を表明できる機会を確保するために、中学校区での児童会・生徒会での話し合いの機会を設ける準備を進める。

カ 自立活動

自立活動は各教科等に合わせて、教育活動全体の中で一人一人の実態に応じて以下の内容を行う。

- 健康管理や自分の体力、成長に伴う体の変化について関心をもたせ、自分で健康管理ができるようにするとともに、体力の増進を図る。
- 学校生活の様々な場面で言語に対する関心や理解を深め、コミュニケーション能力を高める。
- 異年齢集団での活動を通し、よりよい人間関係を形成する基礎を養う。

キ 各教科等を合せた指導

- 身近な自然に触れさせるとともに、畑での栽培活動を通年の作業活動として位置付け、さらに、栽培した野菜等を使った調理を行うことで生活に根ざした指導を行う。
- 日常生活の指導を充実させ、一人一人の実態に応じて個別の課題学習を繰り返し行うことで、衣服の着脱、掃除等、身体的自立の力を付ける。
- 手芸等の作業を通し、手指の巧緻性を高め、日常生活に必要な技能や態度を身に付けさせる。
- 遊びを通し、体力の向上を図るとともに、関わり合いの中で社会性の基礎となる力を付ける。
- 栄養のバランスや規則正しい食生活の大切さについて学ばせ、自分の食生活に主体的にかかわろうとする態度を養う。給食指導では、偏食を減らしたり食事のマナーを身に付けさせたりする等、食に対する意識を高める。
- 「夏祭り(くすのきまつり)」を題材に、児童自らが準備にかかわり役割を分担することで自立活動の促進を図る。また、接客、ゲームなど生活に必要なコミュニケーション能力や社会性を育む。

(2) 生活指導の重点

- 「挨拶プラス一言運動」を軸に教師と児童との信頼関係及び児童相互の心のふれあいを大切に、家庭や地域との連携を深めながら望ましい生活習慣の定着を図る。

- 社会生活に必要な基本的な生活習慣を身に付けさせるために、着替え、排せつ、食事等の身の辺の自立及び対人関係、遊び、ルールやマナー等の社会性に重点をおいて指導する。
- 互いのよさに気付かせ、協力して活動させる中で、よりよい人間関係を育てる。
- きめ細かく児童の様子を観察・把握し、いじめや不登校などの早期発見を図る。毎週金曜日の夕会でいじめ対策委員会、生活指導夕会を実施し、いじめや不登校について情報を共有し、児童が安心して学校生活を送れるように、朝の会や適切な場面で友達へのかかわり方、接し方について指導していく。
- 「いつでも誰にでも相談週間」を設定し、自殺防止に向け、命の大切さを認識させるとともに、個性を尊重し、他人を思いやる心の育成を図る指導を行う。また、SOS の出し方の指導を生活単元学習の授業に位置付けて行う。
- コミュニティ・スクール委員会を活用し、家庭、地域、関係機関から得た情報を基に、犯罪防止、児童虐待・ヤングケアラーの早期発見・早期対応、児童の心のケアに向けた生活指導の推進を図る。
- 「GIGA ワークブックとうきょう」等を計画的に活用して、インターネットやSNS等に対する情報モラル教育を実践し、児童がいじめ等のトラブルや犯罪に巻き込まれないように情報社会における道徳的判断力を高めるとともに、性被害から身を守る「生命(いのち)の安全教育」を実施する。
- 長期欠席傾向のある児童に対しては、サポート会議等で情報共有し、関わり方について具体的に協議し、1人1台端末を活用した朝の会への参加や個別課題の配信など、家庭と連携しながら児童とコミュニケーションを図るとともに学習支援を行う。また、教育相談室・スクールソーシャルワーカー・家庭と子供の支援員などの外部機関との連携を図り、特別支援コーディネーターを中心とした組織的な対応を心掛ける。

(3) キャリア教育の重点

- 日々の栽培、清掃活動など勤労生産的活動や、自分に課された係、当番活動を通し、働く意欲や社会に貢献しようとする意識を育てる。
- 生涯を通じて自らの生活を充実させていこうとする態度や能力の基礎を育むために、学習や活動の終わりに感じたことを発表する時間を意図的に作るなどし、児童の自己理解を進める活動を設定する。
- グループごとに合奏をしたり、数人で係活動を行ったりすることで、友達の意見を尊重しながら、協力して一つのものを作り上げる経験を積み、他者と協働するスキルを身に付ける等「人間関係形成・社会形成能力」に重点をおいたキャリア教育を行い、社会的・職業的自立のために必要な能力を育てる。
- 「キャリア・パスポート」を作成することにより、自己の変容や成長を自己評価し、自己のキャリア形成に役立てるようにする。

(4) 特色ある教育活動・その他の配慮事項等

- 教科の特質や指導内容によって、児童の習得状況や障害の状態等に応じた小集団グループを編成し、個に応じた丁寧な指導を行うことでどの児童も「分かった。できた。身に付いた。」と思える授業を行う。
- 運動会や学芸発表会などの学校行事に、児童一人ひとりの実態に応じた配慮を行いながら、通常学級の児童とともに参加、交流することで「心のバリアフリー」を育成する。
- 週1回の学校図書館利用や朝の読書、読み聞かせの実施など児童が本に触れる機会を十分に確保し、豊かな心情を育てるとともに、読解力の向上を図る。
- 年2回、本学級独自の校外学習を実施する。集団での安全な歩行の仕方、公共施設の利用の仕方、公共の場でのマナー等、社会性を育ませる。見通しをもち、安心して活動に参加できるよう事前学習を、また学

第2表の4 (固・小)

学校名 羽村市立羽村西小学校(知的障害)

習の内容を振り返り、学んだことが定着するように事後学習を生活単元学習として行う。

○放課後等デイサービスに児童が利用する施設との連絡を密にし、情報を共有することによって、児童の健全育成を図る。

○児童だけでなく、保護者とスクールカウンセラーをつなぎ、保護者の支援体制の構築を図る。

○学校DXの活用も含め、働き方改革を推進していくことで教職員の心身の健康増進を図り、児童に寄り添う時間・気力を確保する。

3 授業日数及び授業時数の配当

(1) 年間授業日数配当表

| 学年 | 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|----|--|----|----|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 1 | | 16 | 18 | 22 | 13 | 0 | 19 | 21 | 19 | 19 | 15 | 18 | 17 | 197 |
| 2 | | 18 | 18 | 22 | 13 | 0 | 19 | 21 | 19 | 19 | 15 | 18 | 17 | 199 |
| 3 | | 18 | 18 | 22 | 13 | 0 | 19 | 21 | 19 | 19 | 15 | 18 | 17 | 199 |
| 4 | | 18 | 18 | 22 | 13 | 0 | 19 | 21 | 19 | 19 | 15 | 18 | 17 | 199 |
| 5 | | 18 | 18 | 22 | 13 | 0 | 19 | 21 | 19 | 19 | 15 | 18 | 18 | 200 |
| 6 | | 18 | 18 | 22 | 13 | 0 | 19 | 21 | 19 | 19 | 15 | 18 | 17 | 199 |
| 備考 | ・第6学年は、修了式に参加しないため1日減。 ・第2学年から第4学年までは卒業式に参加しないため1日減。 ・第1学年は、4月8日が入学式のため2日減、また卒業式に参加しないため1日減。 | | | | | | | | | | | | | |

(2) 各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動、各教科等を合わせた指導の年間授業時数配当表

① 各教科

| 教科名 | | 学年 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|-------------------------------------|------|--------------------------------------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| | | | | | | | | |
| 各教科 | 国語 | | | | | | | |
| | 社会 | | | | | | | |
| | 算数 | | | | | | | |
| | 理科 | | | | | | | |
| | 生活 | | | | | | | |
| | 音楽 | | | | | | | |
| | 図画工作 | | | | | | | |
| | 家庭 | | | | | | | |
| | 体育 | | | | | | | |
| | 外国語 | | | | | | | |
| 知的障害者等 特別支援学校の 各教科に対する 教育を | 生活 | 内容 | | | | | | |
| | | 身近生活の処理、手伝いや仕事等 (各教科等を合わせた指導で行う。) | | | | | | |
| | 国語 | 文字の読み書き、漢字、文章表現力の向上、言葉のきまり、物語の理解等 | 180 | 200 | 200 | 210 | 210 | 210 |
| | 算数 | 数の計算、重さ・長さ・かさ・広さの理解と比較、図形、時計の読み等 | 130 | 140 | 150 | 160 | 160 | 160 |
| | 音楽 | 歌や楽器での表現、身体表現、リズム合奏、鑑賞等 | 70 | 70 | 70 | 70 | 70 | 70 |
| | 図画工作 | 絵と工作、造形遊び、道具の扱い、鑑賞等 | 70 | 70 | 70 | 70 | 70 | 70 |
| | 体育 | 基本的な運動、道具を使った運動、水の中での運動等 | 105 | 105 | 105 | 105 | 105 | 105 |
| 小計 | | 555 | 585 | 595 | 615 | 615 | 615 | |

② 道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動、自立活動

| 内容・学年 指導の形態 | 内 容(例) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|----------------|---------------------------------------|----|----|-----|-----|-----|-----|
| 道徳科 | きまりを守ること、思いやりなど、身近な題材から道徳的心情、実践意欲を養う。 | 34 | 35 | 35 | 35 | 35 | 35 |
| 外国語活動 | | | | | | | |
| 総合的な学習の時間 | 交流及び共同学習(行事関連も含む)、ICT機器を活用した学習、キャリア教育 | | | 40 | 40 | 40 | 40 |
| 特別活動 | 学級での話し合いにより、役割進行や協力について学ぶ。 | 34 | 35 | 35 | 35 | 35 | 35 |
| 自立活動 | 各教科等を合わせた指導で行う。(別紙) | | | | | | |
| 小 計 | | 68 | 70 | 110 | 110 | 110 | 110 |

③ 各教科等を合わせた指導

| 内容・学年 指導の形態 | 内 容(例) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|----------------|---|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 日常生活の指導 | | | | | | | |
| 生活単元学習 | ・課題単元(公共交通機関・公共施設の利用、清掃など) ・制作活動・作業活動中心の単元(栽培学習、調理実習、手指活動等) ・行事単元(校外学習、学芸発表会など) ・季節単元(昔遊び、節分等季節、行事関連学習など) ・外国語活動(英語による挨拶や簡単な会話など) | 227 | 255 | 275 | 290 | 290 | 290 |
| 小 計 | | 227 | 255 | 275 | 290 | 290 | 290 |

(3) 年間総授業時数

| 年間総授業時数 (①+②+③) | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
|--------------------|--|-----|-----|-----|------|------|------|
| | | 850 | 910 | 980 | 1015 | 1015 | 1015 |
| 備 考 | ア 1単位時間は、45分とする。(クラブ活動は60分) イ 学級活動以外の特別活動(クラブ活動、児童会活動、委員会活動) ・クラブ活動(第4~6学年) 年間13回 ・児童会・委員会活動(第5・6学年) 年間11回 ウ 英語教育 ・外国語活動については、全学年が生活単元学習として12単位実施する。 エ その他教育活動 ・生活(教科)や自立活動、日常生活の指導、遊びの指導は、生活単元学習の中で合科的に扱う。 | | | | | | |

